

札幌大谷中学校・高等学校

## 2023年度外部点検・外部評価

2024年5月7日

2023年度の学校方針に基づく教育活動・運営の年間反省（自己評価）の点検・評価をいただき、次年度に向けての教育現場の改善を図るものである。

札幌大谷学園 監事

氏名 花輪啓一 

- 2023年度の学校の建学の精神・教訓・教育目標については、体育祭・学園祭等で生徒が自主的に主体的に取り組むよう奨励し、「校訓・建学の精神」は全ての教育活動において十分浸透していると自己評価されているが、この事項は極めて抽象的な内容でもあるため、具体的な成果及び評価については具体的事例の記述を明示されることが望まれる。
- 中高グランドデザインに関しては、中高の教育方針で学校案内や学校公開の場などで丁寧に説明したことは評価されるが、中高のグランドデザインの具体的な内容の説明の記述がない。また、グランドデザインを具現化する方針を立て、実践してきたとされるが、グランドデザインの具現化の説明とどう実践したかについての詳細な説明がなされないままで評価Bと判断されたことに疑問がある。
- 学習指導に関しては、「魅力ある授業・力をつける授業」を展開することが本学が生き残るための一必要条件あることには賛同する。そのために各教員の教科指導に対する意識を向上させ、魅力ある教育者となるための意識改革と研鑽を積むことが必要であることは重要で、このような改革、改善に取り組むことを期待したい。
- 生徒指導「時を守り、場を清め、礼を正す」に関しては、学年集会等での意識付も丁寧に行って、学校全体として規律ある生活規範が保たれていることは評価される。  
生徒指導の対応については、教員が丁寧に対応し、報告、連絡、相談の徹底や管理職・生徒指導部、学年、保護者の連携を強化していることは大変評価され、今後も継続して取り組むことを望む。  
校内での携帯電話の扱い等については、学校の規範や規則の内容を吟味し、現状に遇わない規範・規則を思い切って見直し、生徒たちに自ら考える機会を多く与えた施策は大いに評価される。

- その他、次年度に向けてついで、以前から行われてきた「慣習」や学校業務を根本から見直し、自分たちでしっかり考え、新しい教育活動を展開することは良いことで、学校全体が良い方向で教育活動ができ、生徒により良い教育サービスが行えるよう期待した。

校務運営組織の改善を図り、組織の効率化・業務の見直しのような改革・改善を実際にする場合には教職員の労働環境が悪化しないよう十分に注意しながら進めるよう望む。

中高大の連携を強化することは、定員充足する上で極めて重要であるため、学園全体で今以上に連携の強化が望まれる。

- 2023年度「自己評価報告書（年間反省）」は、全体的に自己評価した具体的な結果・成果の記述がない内容で自己評価されていますので、今後は結果・成果をより具体的記述により自己評価されますよう望む。

以上